

# 地域における医療介護職協働 在宅看取りケア研修事業 報告

今年度実施地域：京田辺市、右京区、上京区、中京区、宇治市、西京区

**右京区**では7月27日(土)に京都市中京区のラポール京都で実施しました。参加者は合計74名。訪問看護師21名、介護支援専門員17名、ヘルパー7名、薬剤師3名、その他(医師・歯科医師・社会福祉士・病棟看護師・地域包括職員・デイサービス職員など)26名の様々な職種の方にお集まりいただきました。

**右京区**は2年連続の開催であり、昨年のテーマであった『家で最期まで生きるを支える』から今年は『最後まで自分らしく』をテーマとし、他職種間で価値観や生き方について考え、話し合いを深めました。

はじめに、高島診療所の高島啓文先生に個々の価値観についての講演をいただきました。続いてケースを紹介。実際に独居の一人暮らしの方の看取りを行ったチーム(医師・介護支援専門員・訪問看護師・ヘルパー・デイサービススタッフ・訪問入浴スタッフの方)に時系列で経過やその時の出来事、また本人・家族・支援者の思いなどを含めて語ってもらいました。



最後はそのケースの支援内容をもとにグループワークを行いました。

互いに視点・価値観・倫理観の違いなどを理解し合うこと、チームとして利用者本意の支援に繋げるために話し合いを重ねること、密に連携を図ることなどが大切であることを学ぶことができました。

このように地域の医療・介護・福祉支援者が顔を合わせ、一つのテーマを話し合う機会が持てたことは有意義な時間後なり、今後も事業所間・職種間の垣根を超え、連携を行うことの重要性を再認識できました。



## ●参加者アンケート 感想・意見より●

- ▶横の関係が広がってよかった。
- ▶見守る事の難しさ、他職種の方々のストレス、忍耐の幅、倫理における善行など勉強になった。
- ▶本人の意思を尊重するケアとは何か?日々問を繰り返しながら頑張りたい。
- ▶とても考えさせられ、他の人と話し合うことで深めることができた。
- ▶症例を通して他職種に関わりについて話が出来、共通した方向性を持って、チームで関わる大切さを学べた。

